<問い合わせ状況 2023年11月>



院外処方せんに関連する問い合わせ



当院は院外処方せんを発行しています。処方内容などに疑義が生じた場合の窓口は薬剤師となっており、月に 5~10 件程度の問い合わせに対応しています。11 月の疑義照会は 12 件で、内容は以下の通りでした。



- ●用法用量確認(2件)
- ●残薬調整 (3件)
- ●重複処方
- ●その他 (6件)
 - ・処方忘れ
 - ・処方医と処方科薬が異なっている
 - ・温シップはかぶれるので別湿布希望 …など
- ※このほか、プロトコールによる変更は5件ありました。 (規格錠数変更、日数変更、1包化希望など)



🍼 薬に関する問い合わせ(患者・家族・施設より)

患者さんやご家族、施設の方からの質問にも対応しています。 11 月はお問い合わせがありませんでした



🥜 薬に関する問い合わせ(院内より)

他部署スタッフからの質問にもお答えしています。記録してある DI 室への問い合わせは、11 月は 6 件でした (病棟で直接質問されたことは未記載の可能性があります)。

◎がついたものについては回答を DI ニュース No. 458 に記載しています。

- ●テオフィリンの注射はあるか? → ネオフィリン[®]注
- ●セフゾン®カプセルはあるか? \rightarrow 無い。セフカペンピボキシルまたはセフジトレンピボキシルが同種
- ●ポリフル細粒は溶けるか? → 不可。錠剤を簡易懸濁する
- ◎レボフロキサシン、セファゾリン、セフカペンピボキシルにアレルギーがある場合、手の術後にクラリス®を使用しても良いか?
- ●アイラミド[®]点眼の代替薬は? → ブリモニジン点眼+ブリンゾラミド点眼
- ●ジルムロ®HD配合錠の代替薬は? → アムロジピン 5mg+アジルサルタン 20mg
- ◎スロンノン[®]H I の持続から点滴静注への切り替え方
- ●リクシアナ®錠を服用していたが経口投与が出来なくなった。どうすれば良いか? → ヘパリン静注へ
- ◎イバンドロン注はルート投与は可能か?

